

議題

(1) 第5次ちば中小企業元気戦略(案)について

(2) 第5次ちば中小企業元気戦略の進行管理について

(1) 第5次ちば中小企業元気戦略(案)について

- ・パブリックコメントの意見は非常に好意的・建設的な内容が多く、その上でさらにもう一步踏み込んだ提案という形で、有意義だった。
- ・千葉のポテンシャルをいかに高めていくかという点で、東京都や川崎市との比較について意見があるが、地域間競争に勝つための戦略を入れて、東京とは違った側面や差別化を打ち出すことで、千葉らしさというものをはっきりしてくると思う。
- ・地域勉強会や研究会を通じて、関係者の声を吸い上げて作ったということが一番の強みだと思う。今後とも意見交換を通じて、元気戦略を浸透させていくことが必要。
- ・流通業から見ると、どうしてもマーケットを求めるので、千葉県の活性化をしていかないと、都内で仕事をしたほうが生産性が高いと考えてしまう。他の地域を視察すると、積極的に誘致やブランディングをして、地域のマーケットを拡大しようとしている。今後もより一層企業の誘致促進等をしていくことが大事。
- ・変化の激しい時代に新しいことをするには、補助金のような背中を押してくれるものが重要だが、中小企業にはなかなか手の届かない要件の厳しい補助金がある。少額でもいいので、もっと手の届きやすい補助金があればよいと思う。
- ・様々な支援制度があっても知られていなければならないものと同じなので、しっかりと伝えることが大事。
- ・とてもよく取りまとめられた戦略だと思う。パブリックコメントでも好意的に受け止められ、現実にマッチしたものと感じている。
- ・千葉らしさという点では、地域づくりが一番大事。企業づくりと地域づくりを一体で取り組み、自社の強みを見直して、地域課題に取り組んでいくこと、それを進めることで、千葉らしさが生まれてくると思う。
- ・第5次戦略でデジタル化が全面に出ている点が大変評価できる。あとは着実に推進していくことが大事。
- ・中小企業1社ごとにデジタル人材を育成するのは現実的には不可能。経産省がデジタルスキルスタンダード(DSS)を発表したが、その中でもDSS-L(リテラシー)にあたる人物、つまり、自社の業務に精通し、自社の改革に熱意のある者を育成するよう求めている。自社の中に人材を持ってないのであれば、地域や業界で共有できるようにすることも重要。そのような育成プランを作って、実行に移す局面だと考えている。
- ・地域勉強会の推進は非常に重要。研究会で専門的な知見から検証を行うことも重要だが、地域の経営者の方々と対話をして、生の声を聴いて、それを反映していくことも大切。研究会での検証と地域勉強会での意見交換の両輪として、PDCAを回していくことで、実効性の高い施策になってくると思う。
- ・千葉らしさという点で、東京に近いから地理的なアドバンテージがあるということが言われているが、実際には都心からかなり離れていてそれを享受できない地域もある。千葉県全体でのアドバンテージという視点では考え直さなければいけないと思う。
- ・企業から相談があった際に、近隣都県との差を感じることもある。千葉県として、どこをベンチ

マークにして、そこに近づき、追い越していくか、という点を持っておきたい。

- ・千葉らしさを出していくには、他の県と差別化をする必要がある。たとえばスタートアップ支援にしても、全体に公平にというより、カテゴリーを設けて、たとえばIT企業には手厚くするといったことをしていくと、千葉らしさが生まれるのではないかと考える。
- ・パブリックコメントの県の考え方で成田空港の機能強化について触れられているが、どこを目指していくのかやその具体策をより明確にしてほしい。
- ・パブリックコメントの意見について、非常に共感するものが多い。具体的な施策の内容が企業に行き渡っていくことを楽しみにしている。
- ・県内のサプライチェーンの強化、物流の利便性強化、企業間交流・コミュニケーションの促進、これら3点が大事だと考えている。今後どのような具体的な施策ができるか注視していきたい。
- ・戦略案が非常によくまとまってきたと考えている。
- ・人材育成に力を入れてほしい。県立高等技術専門校、ポリテクセンター、ポリテクカレッジといった機関による工業系人材の育成のほか、工業系に限らず、小中学生の段階から手厚く産業教育をすることで、県が活性化するのではないかと考える。
- ・成田空港の活性化、とりわけ成田の新市場の活性化を進めてほしい。農家さんではまだまだ従来の出荷先に依存していると見受けられるので、新市場を積極的に取り上げることで利活用を推進してほしい。
- ・起業した身として、起業創業時にどこにどういった相談ができるかという、支援機関の窓口が明確になっているとよいと考える。
- ・パブリックコメントの意見は概ね、的を得た質問や意見が多く、前向きで、具体的・建設的な意見が多かったと考える。中央会の役割も分かりやすく修正されている。

(2) 第5次ちば中小企業元気戦略の進行管理について

- ・世界的な流れで、EBPM (エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング)、つまりエビデンスに基づいた政策決定の重要性が高まっている。そうすると、目標数値を立て、数値を達成できたかで評価していくこととなる。ただ、数字だけでは把握できない定性的・質的な部分、例えば対象者が満足したかといった点も、アンケート等を活用して、評価することも重要。
- ・EBPMのデメリットとして、人が見えていない、生の声が聞こえていないと考える。数字だけでは測れない、事業所の事例や感想といった点も取り上げることで、指標としてより精度が高まると思う。件数が出ていなくとも、現場からの評価が見えたほうがよい。
- ・マクロ的に見れば、目標が実現されれば指標としての数値も上がるため、数値目標を置くことは必要。ただ、定性面の評価が不足しているので、そのような点を追加することもよいと考える。
- ・PDCAサイクルの回し方で、挙げられている施策の目標がうまくいかない、指標の数字がよくなる場合、どのように見直すかが大事。効果がないことを行っても意味がないので、見直しをしてその指標自体をやめる、異なる指標に変えるといったことも必要。
- ・研究会と地域勉強会とを有機的に繋げてほしい。研究会で出た意見を地域勉強会で議論していただいたり、逆に地域勉強会で出た意見を研究会で議論して意見を付け加えたり何か取り組める形にもっていくこともできると考える。
- ・第4次戦略の進捗状況の評価でも、定量評価が中心で、定性面・質の面が評価されていないように感じていた。量と質の両方が見えるような評価基準があるとよいと考える。

【委員】

1	中山 健	共立女子大学	学識経験者
2	小谷 健一郎	千葉商科大学	学識経験者
3	浅野 美希	食育ネット株式会社	中小企業者
4	小倉 秀一	株式会社いまでや	中小企業者
5	熊谷 正喜	ハイテック精工株式会社	中小企業者
6	菰岡 翼	有限会社松山商事	中小企業者
7	董 麗萍	株式会社ロボット応用ジャパン	中小企業者
8	能登 昭博	合同会社NIS	中小企業者
9	三浦 慎	株式会社三英	中小企業者
10	浅井 鉄夫	特定非営利活動法人ITCちば経営応援隊	支援機関
11	近藤 利砂	千葉県中小企業診断士協会	支援機関
12	菅野 宗孝	千葉県信用保証協会	支援機関